

令和8年度第1回 京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程入学試験問題

第1外国語試験 科目名(日本語B)

(注意) 複数の設問がある場合、解答は、設問(ローマ数字のI、II……)ごとに別の解答用紙を用いること。

ただし、設問の中で解答用紙に関して別途指定がある場合は、それに従うこと。

I 次の文章を読んで、問1から問5に日本語で答えなさい。(八〇点)

なお、解答用紙は、問い(問1、2……)ごとに分けて一枚ずつ用いなさい。また、それぞれの用紙がどの問いに対する解答であるかを明記しなさい。

令和8年度第1回 京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程入学試験問題

第1外国語試験 科目名 (日本語B)

(注意) 複数の設問がある場合、解答は、設問(ローマ数字のI、II……)ごとに別の解答用紙を用いること。

ただし、設問の中で解答用紙に関して別途指定がある場合は、それに従うこと。

(佐藤卓己『あいまいさに耐える―ネガティブ・リテラシーのすすめ』より)

問1 傍線部(ア)～(エ)の語句の読み方を書きなさい。

問2 次の語群にある言葉の中から、最も適当なものを一つ選び、空欄部(A)～(E)を埋めなさい。ただし、同じ言葉を複数の空欄に当てはめてはならない。

語群 もっぱら ・ つまり ・ たとえば ・ だが ・ むしろ

問3 傍線部(1)について、「能動的な「耐えを忍ぶ」読み書き能力」とはどのようなものか、説明しなさい。

問4 傍線部(2)について、書物の意義は、なぜ「著者よりも読者によって決定されている」といえるのか、説明しなさい。

問5 傍線部(3)について、筆者は、なぜ「学校秀才のパッシブ・リテラシーに劣るものではない」と考えているのか、説明しなさい。